



古賀中学校卒業生によせる



NGO・ベシャワール会代表
中村 哲 先生

卒業おめでとう。いよいよ中学校生活を終え、次の新しい生活に不安や希望をいただいていることでしょうか。

二年前、古賀中学校に招かれてお話をしたことを思い出します。仕事上、いろんなところで講演をしますが、あれほど生徒会が自発的に積極的に取り組み、文字通り「対話」を交わせたのは、殆ど初めての体験でした。それまで、私も他の大人たちと同様、「近頃の若い者は……」と心のどこかで思っていたのです。今その生徒会時代の最後の卒業生へメッセージを請われ、嬉しく思います。

私がまだ中学生であったころ、高校進学はそんなに一般的ではありませんでした。少なからぬ旧友たちが集団就職して古賀を離れました。戦後十余年、貧しくはありましたが、皆が新日本の建設に向かって、何かはつらつとした希望を抱いていました。

あれからあつという間に四〇年がたちました。希望を持って社会に出た旧友たちは、今それぞれ場所で重きをなしています。社会は豊かになり、食べ物もモノも、あり余るほどになり、家や町並みは美しく、マイカーが走り回っています。

しかし一方で、手放して喜べない事態も見聞きいたします。いつの頃からか、地道な努力が報いられず、大切なことが年々廃れてきたように思えます。若者たちは生きがいや失ってさまよい、目的をもてない人が増えてきたようです。

私たちが生きた青春時代は、戦争で色あせたとはいえ、まだ日本の伝統や古い権威が生き延びて、一つの指針のようなものを与えていました。私たち若者は大人たちのものの見方や生き方に従ったり、反抗してゆけばそれでよかったです。しかし

今や事情はちがいます。確かに古い重しは倒れましたが、気づいてみると、不況だと思いがながらモノは余り、無用な消費をしないと回らぬ世の中になってきた。その中で何とも満たされぬ気持ちをもてあましている……。つまり、諸君は私たち以上に自由で豊か



第99号

発行 古賀中学校P・T・A
古賀市久保107
☎092(942)6871
☎811-3115
編集 広報委員会

でありながら、はるかに不確かな時代の中で出発せねばなりません。

安易な解決法はないでしょう。それでも、周囲に疑問をもたず目新しいことに飛びついたり、何かの享楽で現実を忘れることは解決にはなりません。どんなに世の中が荒れても、変わらぬものがあります。今後も、氷は

冷たく、火は熱く、自然が美しいように、命へのいたわり、勇気、同情：これらも変わらずに美德でしょう。
若者の特権は、目先の享楽や利益にとらわれず、まっすぐにものを見て行動できる身軽さにあります。本当に大切なものを「人としての本分」を問い、周りを明るくする存在になることそれによって自分も何かの豊かさを手に入れるでしょう。何かの時にこの事実を思い出して下されば、私が諸君の母校で対話できたことも無駄ではなからうと思えます。
諸君の良き将来を祈ります。

21世紀の主役たちへ



●中村哲氏のプロフィール

1946年生まれ、古賀市出身。西小学校を経て、九州大学医学部卒。

パキスタン北西部のベシャワールに病院・診療所を設立。以来現地にてアフガン人の無料診療や「らい」根絶のための活動を展開。

外務大臣賞、アジア太平洋賞などを受賞。主著「医は国境を越えて」「ベシャワールにて」